

社教センターまつりのおもひで

伊藤さん

(現中央公民館会計年度任用職員)

「第1回社会教育センターまつり」が開催された昭和51年は、同センターに勤務していました。

センターまつりの開催にあたっては、センターで活動するサークル・団体等からなる実行委員会方式を採用し、とりわけ若い年代層を中心に実行委員会が組織されていました。バンド演奏やスナックギャラリーなど、エネルギッシュな出し物が多くありました。

社教センターまつりは、サークル・団体の成果発表の場であると同時に、センターが地域コミュニティの一員として、地域とのつながりを高めていくきっかけになったのではないのでしょうか。

今泉さん

(陶芸サークル『遊』会員)

社教センターまつりで実行委員を務めたことがあります。当時は写真サークルに所属しており、年に数回展示会を実施する際に公民館を利用しました。

のど自慢大会で審査員として壇上に上がったことが鮮明に記憶に残っています。

自分は、一人で好きなことをすることが楽しいと思っていましたが、社教センターまつりを通して、様々な活動をしている人たちと交流する楽しさを知ることができました。社教センターには人と出会い、語らうことの喜びがありました。

次号も「公民館まつり」を特集します！

中央かわら版 第5回

第5回となる今回は『 豊ヶ池の頼朝伝説と長須賀の小籠さん 』についてです。長須賀の方と世間話をしていた際に、西清小のご近所に『小籠』という苗字の家が多いことについて、教えて頂いた話がとても興味深かったのでご紹介します。

源頼朝と言えば皆さんご存じの通り鎌倉幕府を開いた武家の棟梁です。

石橋山で平家に敗れた頼朝は安房国で再度挙兵し、内房沿いに北上しながら在地豪族の協力を募り、やがて平家討伐の兵力を整えた・・・というのが鎌倉幕府成立の前段の話なのですが、その道中で木更津にも立ち寄ったとされており、市内の様々な場所に伝説が残されています。(皆さんご存じの八剱様などもそうです)

朝日にある豊ヶ池もそのうちの一つ。頼朝が池の近くで昼食を取ろうとした時に地元の方が、偉い人だから豊を敷いて接待したということで豊ヶ池と呼ばれるようになった、と伝えられているそうです。

長須賀の小籠さんという苗字もその時のことで、こんな昔話が残されています。

『 むかし、頼朝がいまの豊ヶ池へきて昼休みをしてえてき、食事んどき、長須賀の人が作って持ってっただってね、籠なんぞに入れてね。

むかしゃほれなんだ(それなんです)、いまみてに食器があるわけじゃなし、竹で作った籠とか持ってきて頼朝にあげたら、頼朝が「小籠」って名前くれたって、聞きましたね。ほいでほら長須賀あたり、小籠って姓が多いんだよね。 』

木更津の民話刊行会編 きさらづの民話より 中里地区の山口金太郎氏語る

【 その土地に多い苗字を紐解くと地域の歴史に結びつく 】というお話でした。地域に根差した素敵なおはなし、本当にありがとうございました。

今回のような地元のマメ知識をお持ちの方はぜひ公民館事務室までご提供ください。